

# 2023 年度（第 32 期） 事業報告書

自 2023 年（令和 5 年）4 月 1 日  
至 2024 年（令和 6 年）3 月 31 日

公益財団法人 北海道新聞野生生物基金

## はじめに

公益財団法人北海道新聞野生生物基金は、今春にゼロ金利政策が解除されたとはいえ、これまでの長期にわたる超低金利で基本財産運用益は引き続き低水準にあり、寄付金も終息の見えないウクライナ危機やガザ地区で続いている戦争の影響などで、円安や諸物価の値上げが続き厳しい経済状況が続いている。このような環境のため一般からの寄付金は前年度より 136 万円減少し、サポート企業の会員も 12 社・54 万円減、あわせて 190 万円あまりの減額になった。

一方、公益目的事業は、まだまだ油断はできないが新型コロナが 5 類へと移行したことで、コロナ禍前と同様に実施することができた。メインの助成事業は一般助成、杉本とき鳥類保護助成を合わせて 11 団体・個人に総額 290 万円を助成するなど、北海道の自然と野生生物保護のための事業を展開した。収益事業では、諸資材の値上げ対策と環境への配慮を考え、卓上型カレンダーケースをプラスチックから紙へと変更するなどしたが、厳しい経済情勢の影響で企業の名入れカレンダーが大きく減少したため、一般会計への繰入額は予算比 90 万円減となった。

寄付金については、税額控除の対象法人取得要件（5 年間の年平均で 3000 円以上寄付の個人・団体が一定数必要）を維持できるよう、今後も一般向けのほか、北海道新聞社の社員・OB、販売所などへの支援の呼びかけ、サポート企業の会員獲得、さらには新たに導入した Web からの寄付金収入を目指していく。

## ◇収益事業（特別会計）

\*一般販売用カレンダー事業 決算額 405 万円（予算額 440 万円）

「北海道野生生物写真コンテスト」の応募作品の中から秀作を選び、動物部門の大判吊り下げ型と植物部門の卓上型、かわいい動物写真の中綴じ吊り下げ型のカレンダーを発行した。当基金や書店などを通じて北海道の野生生物を守る目的と願いを込め継続して販売している。諸資材の値上げ対策と自然環境への配慮から、卓上型カレンダーのケースをプラスチックから紙へ変更するなどして経費を 35 万円抑制したが、カレンダー発行を始めて以来ご協力いただいていた企業の名入れの大口減が大きく影響し、公益目的事業に繰り入れる額が 220 万円と、90 万円余り減となった。

## ◇公益目的事業（一般会計）

### 【普及啓蒙事業】

\*シンポジウム・フォーラム 決算額 20 万円（予算額 20 万円）

7 月に基金設立 30 周年記念展、9 月に植物写真家の梅沢俊一さんを講師に迎えて野生生物保護に関するフォーラムを開催した。会場はどれも道新プラザ DO-BOX で、支出は記念展での講演やトークショーの謝金、チラシ作成費。

## 【自然体験活動事業】

(1) 自然・環境出前講座 決算額 33 万円(予算額 20 万円)  
北海道新聞社との共催で当基金の評議員を中心とする講師を道内各地の学校・団体などからの要請に応え、小中高校や地域学習の場に派遣する事業。知床、羅臼高校、富良野(小学校)で実施した。開催地が遠隔地だったため出張など経費がかかった。

(2) 自然・環境エクスカージョン 決算額 0 万円(予算額 10 万円)  
2023 年度は道新観光と組み自然散策と写真撮影を楽しむ知床探訪ツアーを 7 月に計画したが、クマの出没が相次いだ時期であったため参加者が集まらず中止した。また、北海道の野生生物を考えるイベントなどの後援や事業も要請がなかった。支出は北海道市民環境ネットワーク賛助会員会費。

(3) モーリーの森づくり 決算額 15 万円(予算額 0 万円)  
北海道新聞社との共同事業で「モーリーの森づくりⅡ」として植樹地の空知管内栗山町で 2012 年度から行った。新型コロナの感染拡大で 2019 年に最後の植樹を行い、以降は保育管理のみ実施した。借地期限の最終年度で、当初は植樹した樹木が成長していることから何も行わない計画であったが、評議員から保育管理を望む声もあり実施した。

## 【コンテスト事業】

(1) 写真コンテストと写真展 決算額 107 万円(予算額 100 万円)  
第 29 回北海道野生生物写真コンテストは、道内外のアマチュア写真家 185 人(前年比 33 人減)から 486 点(同 98 点減)の応募があった。審査で選ばれた動物部門の入賞 7 点、入選 12 点と植物部門の入賞 4 点、入選 9 点は北海道新聞紙上と 11 月 3 日～8 日、富士フィルムフォトサロン札幌で展示したほか、「モーリー通信 3 号」で紹介する。

(2) 夏休み自然観察記録コンクール 決算額 17 万円(予算額 20 万円)  
第 30 回夏休み自然観察記録コンクール(北海道新聞野生生物基金、北海道自然保護協会、北海道新聞社主催)には、道内 15 小学校(前年比 2 校減)から 32 点(道 10 点増)の応募があった。審査会で選ばれた入賞 8 点と佳作 8 点は 10 月 31 日～11 月 5 日に札幌市資料館で、2024 年 1 月 5 日～9 日に札幌市円山動物園で展示した。金賞・銀賞は道新こども新聞「まなぶん」で紹介し、入賞・入選者は「モーリー通信 3 号」にも掲載する。

## 【出版事業】

\* 自然情報誌「モーリー通信」の発行 決算額 144 万円 (予算額 150 万円)

「モーリー通信 2 号」を 2023 年 6 月に発行した。表紙写真は写真家・山本純一氏のシマフクロウで、特集は絶滅リスクの高いノサップマルハナバチほか大都市札幌圏に棲む昆虫。他には 2022 年に実施したフラワーソン、2023 年度に実施した北海道野生生物写真コンテスト、夏休み自然観察記録コンクール、助成事業など。執筆者の協力もあり予算内に収まった。

## 【助成事業】

\* 助成事業 決算額 302 万円 (予算額 320 万円)

道内の自然保護、野生生物保全に尽力している団体・個人の活動を広く応援している。2023 年度の一般助成は 8 団体・個人に 190 万円、別枠で設けている「杉本とき鳥類保護助成基金」は 3 団体に 100 万円を助成した。申請件数は前年に増えた反動と思われ、前年より 9 件少ない 18 件で、金子正美審査委員長らによる審査会で決定した。助成対象事業の実施期間は原則 1 年で、年度末に報告書を提出してもらった。

## ◇その他の事業（一般会計）

(1) パンフレットなどの作成 決算額 0 万円 (予算額 10 万円)  
前年度作製分に対応できたため支出はなかった。

(2) ホームページの維持・更新 決算額 33 万円 (予算額 10 万円)  
基金の活動を広く宣伝・紹介するほか、助成事業や写真コンテスト応募用紙のダウンロードなど、事業の推進にも役立っている。当期は寄付金の維持、増収のためホームページのスマホ対応化と Web 寄付の仕組みを導入したため予算を 23 万円超える支出となった。

以 上